

令和7年度第1回山田町総合教育会議_会議録

■開催日時 開会 令和8年2月24日(火)午後3時00分
閉会 令和8年2月24日(火)午後4時05分

■開催場所 山田町役場4階特別応接室

■出席者

佐藤	信逸	町長
松葉	覚	教育長
長崎	千秋	教育委員
中村	敏彦	教育委員
佐々木	善朗	教育委員
湊	樹理	教育委員

■欠席者なし

[事務局]

田畑政策企画課長、佐藤政策企画課長補佐、鈴木企画調整係長
佐々木教育次長兼学校教育課長、箱石学校教育課長補佐、菊池指導主事
大川生涯学習課長

■傍聴者なし

■内容 次のとおり

1 開会（佐藤政策企画課長補佐）

2 町長あいさつ

本日は、皆さま、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。総合教育会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本町では、町政運営の最上位計画として、今後のまちづくりの方向性を示す重要な指針となる「第10次山田町総合計画」が、令和8年度からスタートいたします。教育大綱は、この総合計画を踏まえて策定されるものであり、本町の教育行政の基本となる理念や方針を示す重要な計画です。

本日の会議では、まず総合計画のうち、学校教育・生涯学習分野について情報共有を行い、その上で、令和8年度を始期とする「第2期山田町教育大綱(案)」について、皆さんと協議を進めていきたいと考えております。限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただきながら、実りある協議となることを期待しております。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

3 教育長あいさつ

本日は、お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。先ほど町長が申し上げましたとおり、今日の会議では学校教育、生涯学習分野の情報共有を行いながら、山田町の教育大綱（案）についてご意見をいただきたいと思います。教育委員の皆さまには、日頃から本町の教育、子ども達のために、ご意見、ご指摘をいただいております。この会議の中でもいろいろとご意見をいただければありがたいと思います。教育大綱をより良いものにして、子ども達の教育にあたって参りたいというふうに、考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

4 情報共有 [進行：佐藤町長（座長）]

(1) 第10次山田町総合計画（学校教育・生涯学習分野）について（説明：鈴木企画調整係長）
事務局の説明後、質疑へ移行。

[佐藤町長]

説明のあった総合計画について、何かご質問やご確認はありますか。これは今後10年間の基本的な方向性を共有するものですので、些細なことでも結構です。

[佐々木教育委員]

特にはないですけど、非常に良い内容になっているのではないかと見ておりました。

[佐藤町長]

中村委員はどうですか。気づいた点や疑問などは。

[中村教育委員]

特にはありません。ただ、施設などの設備が非常に充実してきているなど感じます。こうした設備が、しっかりと教育の結果に結びついていけばいいなど考えております。

[佐藤町長]

施設の老朽化も進んでいますから、計画的なメンテナンスは重要ですね。長崎委員はいかがですか。

[長崎教育委員]

生涯学習分野の「家庭教育の推進」について伺います。資料にある「生活リズムに寄り添った学びの場」や「保護者の不安や悩みに寄り添う学びの場」というのは、具体的にどのような場所や時間を想定しているのでしょうか。

[佐藤町長]

はい、生涯学習課長。

[大川生涯学習課長]

現在行っている事業としては「たんぼぼ学級」があります。これは未就学児とその保護者を対象としたもので、育児の悩み共有やつながりづくりを行っており、まずはこれを継続します。

[長崎教育委員]

小学生や中学生の保護者を対象にしたものは、ないのでしょうか。

[大川生涯学習課長]

家庭教育学級という小中学生の保護者を対象にした事業もあります。

[佐々木教育次長]

令和8年度から旧船越小学校の校舎を本格活用します。これまで不登校児童の保護者の方々が、個別にしか相談できなかったものを相談できるサロンのような場を設けたいと考えています。

[佐藤町長]

湊委員はいかがですか。

[湊教育委員]

今、不登校の話が出ましたが、そこまで至っていない「ちょっと学校に行けない」という子を持つお母さんたちが非常に悩んでいるケースを多く見かけます。「どこに話せばいいのか分からない」という声もあるので、そうしたケアも一緒にできればいいなと思います。

[佐藤町長]

どうでしょうか。

[佐々木教育次長]

おっしゃる通りです。定義は違いますが、学校に行きづらくなって、時間をずらして登校したりするのも不登校の傾向の一つです。そうすると保護者も仕事を休まざるをえなかったり、精神的・経済的に辛い思いをされます。そうした保護者を集めて心をケアし、「不登校対策は、教育委員会と一緒にやっていきましょう」と呼びかけられるサロンを作りたいと考えています。

[佐藤町長]

どんなアプローチをしていけばいいんだろう。

[佐々木教育次長]

現在も教育研究所の中に相談室はありますが、人目を気にしてなかなか足が向かないという課題がありました。旧船越小学校は、学校とは別の新たな場所として、開かれた形で、かつプライバシーにも配慮した相談体制をとれるよう工夫してまいります。

[松葉教育長]

不登校支援については、まず「学校と保護者の関係再構築」がスタートだと考えています。保護者が子どもの不安を担任に相談できる関係を作ること。その上で、学校内の別室で対応する「校内支援センター」と、旧船越小学校のような学校外の「校外支援センター」の二段構えで居場所を作ります。本町には、県内でも珍しく町独自のスクールカウンセラーと特別支援のコーディネーターがおります。相談することは、親にとってハードルが高いと思いますので、このハードルを少しでも下げられるように、もっとアピールしていきたいと考えています。

5 協議事項 [進行：佐藤町長（座長）]

(1) 第2期山田町教育大綱（案）について（説明：鈴木企画調整係長）

事務局の説明後、協議へ移行。

[佐藤町長]

教育大綱（案）について、疑問点や修正すべき点などがありますか。

[佐々木教育委員]

基本目標の「生涯にわたる学びを支援する社会教育の推進」についてですが、具体的に何をどうするのか、この文面だけでは少し分かりづらいと感じました。

[松葉教育長]

基本目標の（3）は、施策展開の（3）にある①から③の内容に対応しています。具体的には、多様な学習機会の提供や、地域イベントを通じた世代間交流の創出、郷土芸能の継承、そしてそれらを支える人材育成などを総合的に進めていく方針です。基本理念にある「つよさ・やさしさ・しなやかさ」には、変化の激しい社会を生き抜くための強さ、他者を思いやる優しさ、そして柔軟に対応できるしなやかさを持ってほしいという願いを込めています。教育次長、補足があればお願いします。

[佐々木教育次長]

「つよさ」というところは、学校教育の中で、心身ともに力強く子ども達を育てていきましょう。「やさしさ」というところは、みんなで優しさを持って、家庭のことも支援しながら、子ども達を育てていく。「しなやかさ」というのは、地域の中で多様な考え方に触れながら、しなやかに生きていくという、そういう意味合いも、持たせております。

[佐藤町長]

中村委員はどうですか。

[中村教育委員]

特にはありません。これからどのような教育環境が提供されていくのか、楽しみでしかありません。

[佐藤町長]

皆さんいかがですか。よいでしょうか。委員の皆さんに文句の付けようがないとだけいただけるような素晴らしい目標ですが、大切なのは結果ですね。

[松葉教育長]

そうですね。ただ、先ほどの質問にあったように、この一枚の資料だけでは分かりづらい部分もあるのかなと思いました。

[佐藤町長]

分かる人には分かるけど、分からない人には分からないなあ。

[松葉教育長]

少し解説を加えるなど、内容を再度調整させてください。

[佐藤町長]

分かりました。

(2) その他

[佐藤町長]

なんでもよろしいのですが、皆さんから何かございますか。学校の現状なり社会の風潮なりお聞かせいただければ、ぜひ参考にしたいと思います。

[佐々木教育委員]

旧船越小学校に出入りする車の数が増えているように感じています。

[佐藤町長]

それでは、校外支援センターについて少し説明をお願いします。

[佐々木教育次長]

昨年の6月から試行運用しておりまして、スタート時は10人で、現在は、小学生10人・中学生6人の計16人が通っています。活動内容ですが、月曜日と金曜日は畑作業、調理実習をしています。火水木は、通常運転で来たい子が来ています。また、月に1回全体交流会として、在籍している子たちみんなが集まって、料理を作ったり、カフェをしたり、地域の方からすっどぎ作りを学んだりしています。あとは、学校給食をその日に提供しております。令和8年度からは、週に1回は給食を出したいと考えています。

[松葉教育長]

来年度は、月曜日から金曜日まで時間割を組みます。今までは与える教育という形でしたが、今度は子どもが選択をするという形にしたいと考えています。また、現状は保護者が送迎していますが、県北バスの時刻表を確認すると、ちょうど良さそうな時間帯があるので、それに乗って自分で通ってもらいたいと考えています。自分で登下校しないと、不登校は解消しないので。あとは、佐々木教育委員の力を借りて地域活動をしてみたい、将来的にはサークル活動の場として使っていただいて、子ども達との交流の場とするのもいいと思っています。

[佐藤町長]

校外支援センターは、公的なものでは山田が初めてですか。

[松葉教育長]

本町のような大規模なものはないです。県では沿岸部に、当センターのような拠点を設けたいというような話もしています。

[佐藤町長]

支援センターに通う子が増えると、今度はそこに通えない子が出てしまう可能性もあるので、ある程度の規模で、通っている子ども達を大切にすることが必要ですね。

[松葉教育長]

学ぶ場所は昔と違って学校だけじゃないというのが常識的になってきたので、そこに私達が対応できるようになっていけばいいのかなと考えています。リモートでも授業ができますし。

[佐藤町長]

皆さんはどうでしょうか。学校に対して感じていることは。

[湊教育委員]

支援センターに行ける人はいいんですけども、行けない人は結構多いと思います。親が先生に相談できない。誰に相談していいのかわからないという状況があると思います。

相談するハードルが高いように感じています。

[松葉教育長]

学校がもっと気軽に相談できる環境でなければいけないので、我々にも責任があると思います。先生の中には相談を受けるのが得意な方もいるので、そういうのをもっとアピールしてやっていく必要があるかなと思います。

[湊教育委員]

あとは、不登校の子だけでなく、頑張っている子たちをもっと伸ばしてほしいと思います。

[佐藤町長]

伸びる子はどんどん伸ばすという施策ね。どうでしょうか。

[佐々木教育次長]

中学生が進路選択をする場合に、地元の高校を選ばないで、宮古、釜石へ行く傾向があります。そう考えると、やっぱり子ども達は勉強したいわけです。ところが、町内の小中学生の学力もまだ低いので、そこを底上げして、その子たちが山田高校に入って、山田高校も学力を上げてという、そういう好循環を作りたいと考えています。そのため、タブレットの活用が必要と考えています。ここは教育資源が少ない場所ですが、タブレットには良い教材が入っているので、それを毎日持って帰って活用してもらおう。そこに教育委員会として力を入れていきたいです。

[松葉教育長]

あとは、大学生による学習支援を具体的にしていきたいです。子ども達の夏休みの勉強を見てもらうとかしていきたいなど。

[佐藤町長]

連携協定を結んでいる大学もあるし、ぜひ進めてください。

[松葉教育長]

現在も、数名の子ども達が、大学の支援を受けて授業を受けています。その輪を広げていければと考えています。

[佐藤町長]

先日、岩手医科大学の学生の半数が県外出身者であり、卒業後は県外へ流出してしまうという話を伺いました。そうした方々は、小学生の頃から医師を目指して懸命に学習しているとのことで、地方と都市部の教育格差を痛感させられます。しかし、現在はタブレット端末などの活用により、地方にいても学力を大きく伸ばせると思います。

[佐々木教育次長]

高校の選択の話にもなってくるんですが、山田の子ども達は、バイアスがかかっている、「宮古、釜石に行かなければ大学に入れない」と思っている節があるんです。ところがそれは、中学校までに勉強の仕方を身につけてこなかったことの裏返しです。自分で勉強の仕方を覚えていれば、どこの高校に入ろうが大学に入れるんですよ。岩泉高校とか、伸びているのはそこなんです。やっぱり山田の子ども達も、そこに負けてはダメだと思うんです。「山田高校でも別に俺、大学入れるし」という意識を持ってほしいと思っています。

[佐藤町長]

その他何かありませんか。

[中村教育委員]

町として、山田高校にもサポートができれば良いのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

[佐藤町長]

政策企画課長どうぞ。

[田畑政策企画課長]

山田高校への支援は、入学時や、修学旅行時など 200 万円強の補助金を、毎年支出しています。今回、町長の施政方針でも、「山田高校への給食について準備を進めます」ということで、令和 9 年 4 月から本格的に支援するため現在調整しているところです。それから、地域おこし協力隊を活用したボートによる町おこしということで募集をかけています。山田高校をなんとか盛り上げていきたいという町長の指示もございますので、出来るところからではあります、取り組んでいるところです。

[中村教育委員]

存続というラインで収まらないで、入学者がすごい増えていくように取り組んでいただきたいです。

[佐藤町長]

ボート競技は海や湖という環境がなければ成立せず、現在県内でボート部があるのは 6 校に限られています。私は、この拠点を山田に集約させるべきだと各メディアでも発信しています。そうしなければ、私立校の勢いに負けてしまうからです。花巻東高校であっても、ボート部はありません。そのために、ボート部の寮を作っても良いと考えています。また、山田高校での学びが生徒たちの誇りとなることを願い、探究授業の「高校生議会」で提案された「遊ビバ！！」も実現させました。こうした取組を、今後も進めていきたいと思えます。百周年は来年だよな。

[田畑政策企画課長]

そうです。そちらにも補助金を出す予定です。

[佐藤町長]

他にはどうですか。

[湊教育委員]

山田高校への補助金について、入学時の補助や修学旅行時の補助など、今の使い道を見て、山田高校に入りたいという子はいるんでしょうか。

[田畑政策企画課長]

町では使い勝手がいいように、使途は高校側に任せています。ですが、一度始めてしまった補助内容を変えるのは難しいと高校側は考えているようです。

[湊教育委員]

ただ経費に補助するのではなく、例えば講師を呼ぶなど他の使い道は無いのかなと思います。あと、ボート部についても、高校だけでなく、中学校でもボートができるようになればつながっていくのかなと思います。

[松葉教育長]

スポ少でボート部をやらしてもらえばいいですよ。

[佐々木教育委員]

中学校では2校しかないですよ。秋田の本荘とか。地域のボート大会の参加者もすごいですよ。

[松葉教育長]

学校の意図としては、頂いた補助はみんなに均等に返したいということで、そのようにしているのかなと思います。ただ、それが魅力化なのかというと違うと思うので、新しい発信をしてほしいなと思っています。

[田畑政策企画課長]

保護者アンケートによると、現在の使い道を継続してほしいという回答が多い現状があります。

[佐藤町長]

そうは言っても、教育委員の皆さんのご意見もありますので、参考にしてください。

[佐藤町長]

皆さん、他にはよろしいでしょうか。それでは、進行を事務局にお返しします。

6 閉会（佐藤政策企画課長補佐）